

どのくらいのごみが町から出されているかご存知ですか？

意外と知らない！町のごみ

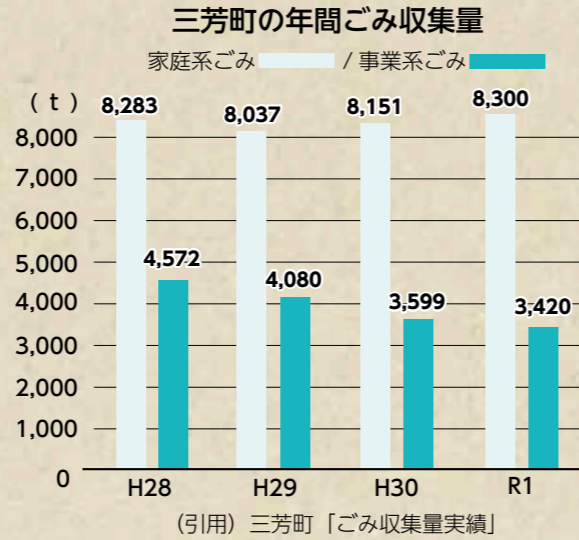
緑豊かな三芳町にも発生しているごみの課題。ごみは一人ひとりの意識で減らすことができます。この機会に毎日のごみの量を見直してみませんか。



1人1日当たり621gの家庭系ごみ

三芳町ごみ収集量実績によると、町から出される家庭系ごみの量は平成30年から増加傾向となっています。正しい分別を進めることで、ごみを削減する必要があります。一方、事業系ごみについては減少傾向にあるものの、依然として量が多い状況が続いているため、手数料の改定などにより、町以外からの流入防止と資源化を進めています。

- ▶家庭系ごみ…一般家庭から出されたごみ。
- ▶事業系ごみ…事業所などから出されたごみ。



大切な資源がもやすごみに

三芳町のもやすごみの中には、資源化が可能な雑誌・雑がみや容器包装プラスチック類等が混ざっています。特に課題となっているのは雑がみの回収。はがきやお菓子の箱など、紙のリサイクルマークのあるものは雑がみとして正しく分別しましょう。

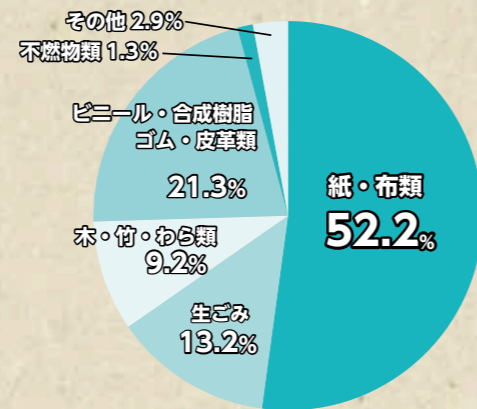


雑がみを探して分別しよう！

- お菓子の箱・はがき・シュレッター紙・雑誌
- トイレトペーパーの芯など



三芳町のもやすごみの組成



(引用) 三芳町「平成28年度もやすごみの組成」

最終処分場はあと何年使える？

ごみを焼却した際のもえがらや陶器類などは埋め立てるしかありません。埋め立て場所である最終処分場の容量には限りがあり、平成30年の時点で、あと21.6年でいっぱいになってしまうと予測されています(※)。未来のために、今、ごみの減量が求められています。

(※)引用:環境省「令和2年度版 環境白書・循環型社会白書・生物多様性白書」



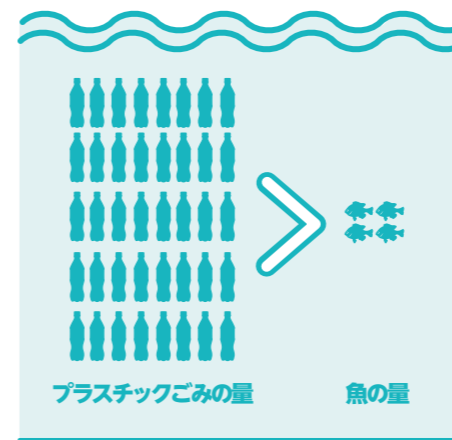
特集

ミヨサイクル

小さな工夫が大きな力

小さな落ち葉でもたくさん集めれば、おいしい野菜を育てることができるように、毎日の小さな心がけが未来の環境を守る力になります。今月はリサイクル特集。ごみと環境について考えてみませんか。

「ごみを減らさないとうなる？」



2050年、プラスチックごみが海洋中の魚の量を上回る

2016年、エレン・マッカーサー財団が公表した予測によると、このままプラスチックごみが増加し、海に溜まり続けた場合、2050年には海洋中のプラスチックごみの重さが魚の重さを上回るとされています。

美しい自然を未来へ



世界のゴミ問題

私たちの生活から出される多くのごみ。今、ごみが環境に与える影響が問題となつていきます。世界で1年間に排出されるごみの量は、2016年の時点で約20・1億tと推定されていますが、30年後には約34億tにまで増加すると予測されています(※1)。

新

新型コロナウイルス感染症の影響で、家で過ごす時間が長くなった今年1年。年末に合せて大掃除をする人も多いのではないのでしょうか。そこで発生するのがたくさんのごみです。



美しい平地林で落ち葉掃き。きれいな町の風景を守るためにも、ごみの減量は大切です。

三芳町の課題

一方、三芳町に目を向けてみ

ると、もやすごみの量が多いという課題があります。その要因として挙げられるのは、分別が正しく行われていないこと。もやさないごみや雑がみもやすごみとして捨てられているという状況があります。

混ぜればごみ、分ければ資源。今月のテーマは「ごみとリサイクル」。今年の年末は、物を使うこと・捨てることについて一緒に考えてみませんか。

(※1) 引用:世界銀行「What a Waste 2.0: 2050年に向けた世界の廃棄物管理の現状と展望」